

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
平成 23 年 7 月 28 日

● 早期落水を防止し高品質米生産を!

[生育概況]

6月下旬から7月中旬は気温が高く、日照も多く推移しました。7月第5半旬は低温傾向でしたが、出穂はやや早まっています。出穂期は、4月20日植えの「ふさおとめ」が平年より1日早い7月13日、「ふさこがね」が平年より2日早い7月14日、「コシヒカリ」は4月20日植えが平年より3日早い7月20日、5月1日植えは平年より2日早い7月26日となっています。

成熟期は、県南地域が一番早く、「ふさおとめ」が8月14日頃から、「ふさこがね」が8月19日頃から、「コシヒカリ」が8月26日頃からと予測されます。

表 1 品種別の生育遅速と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年遅速	成熟期予測			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日頃	やや早	8月19日～	8月17日～	8月16日～	8月14日～
ふさこがね	4月20日頃	やや早	8月24日～	8月22日～	8月21日～	8月19日～
コシヒカリ	4月20日頃	やや早	9月1日～	8月30日～	8月28日～	8月26日～
	5月1日頃	やや早	9月3日～	9月1日～	8月31日～	8月29日～

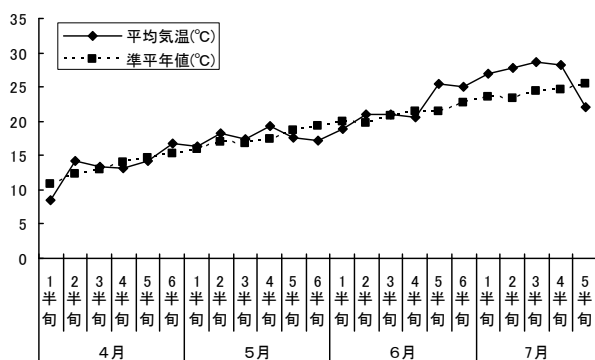


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

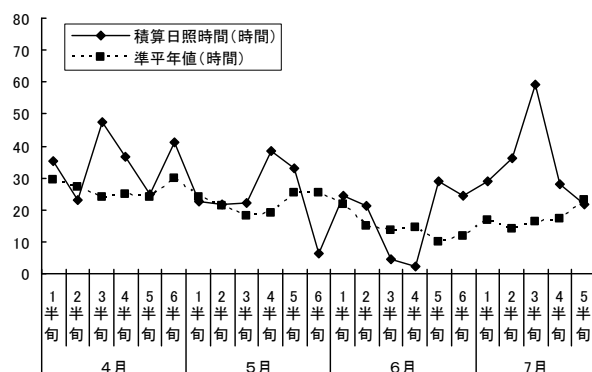


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 適正な水管理の徹底

米粒の充実と品質向上のために出穂後 25 日までは水が必要です。登熟期の水不足は減収と乳白米等白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。

田をよく見回って適正な水管理を徹底しましょう。また、早期落水は絶対にやめましょう。

※ 米のカドミウム残留基準値が 1.0ppm から 0.4ppm に引下げられ、基準が厳しくなりました。自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、「出穂前 3 週間～出穂後 2 週間の湛水管理」が有効です。「安全・安心」な米作りのために対策を励行しましょう。

- 出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理
- 出穂 2 週間後～出穂 25 日後までは間断かんがい

■ 斑点米のカメムシ類の防除

ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

- 出穂期に、クモヘリカメムシ成虫等が飛来していないか、ほ場を良く見回り、成虫が多い場合には防除を実施する。特に出穂の早いほ場では、成虫の飛来に注意する。
- 一度防除を実施したほ場でも、その後に侵入した成虫やふ化した幼虫によって被害が発生する可能性があるため、ほ場内でのカメムシ類の発生状況に注意する。
- 主な防除薬剤は次のとおりである。最も防除効果が高い時期は、幼虫発生初期である出穂 15 日後ごろである。薬剤の使用基準（収穫前使用日数）を厳守する。

表 2 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a 当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7 日前まで/2 回
スミチオン粉剤 3DL	MEP	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回 (注: 出穂前散布は 1 回まで)
スミチオン乳剤 1,000 倍液	MEP	120~140 リットル	収穫 21 日前まで/2 回
バイジット粉剤 2DL	MPP	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回
トレボン粉剤 DL	エトフェンプロックス	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
MR, ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフェン	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回
MR, ジョーカーEW 2,000 倍液	シラフルオフェン	60~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回
ベストガード粉剤 DL	ニテンピラム	4kg	収穫 14 日前まで/4 回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7 日前まで/3 回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍液	ジノテフラン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	クロチアニジン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
エルサンバッサ粉剤 20DL	BPMC、PAP	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

■ いもち病の防除

葉いもちは穂いもちの伝染源となります。止葉などの上位葉に病斑が多数見られる場合は、穂への感染が助長されるので早急に防除を行いましょう。

- 穂いもち防除は予防が重要であり、発病してからでは手遅れとなることが多い。
- 出穂前、葉に進行型病斑が多数みられる場合は、直ちに表 3 の防除薬剤のいずれかを散布する。
- 出穂期に入っても上位葉に病斑が多くみられる場合は、表 3 の茎葉散布剤（乳剤、粉剤、液剤等）を散布する。
- 出穂期以降もさらに発生が続くときは、天候等を考慮した上で、乳熟期頃にも追加散布を行う。

表 3 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期/使用回数	作用性
コラトップ粒剤5 コラトップジャンボ	3~4kg 10~13個	穂いもちに対しては出穂 30 日~5 日前まで/ 2回	予防
フジワン 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 30 日~10 日前に湛 水散布。ただし収穫 30 日前まで/1 回	
フジワン 粉剤DL フジワン 乳剤	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回	
ラブサイド粉剤DL	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回	
キタジンP 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 20 日~7 日前まで/ 2回	
〔耐〕アチーブ 粒剤7	3~4kg	穂いもちに対しては、出穂 30 日~5 日前に湛 水散布。ただし収穫 21 日前まで/3 回	
〔耐〕アチーブ 粉剤DL 〔耐〕アチーブ MC	3~4kg 2,000 倍/120~150 リットル	収穫 14 日前まで/3 回	予防・ 治療
カスラブサイド粉剤DL	3~4kg	穂揃期まで/2 回	
ノンプラス 粉剤DL ノンプラス フロアブル	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	収穫 21 日前まで/2 回	
ブラシン 粉剤DL ブラシン フロアブル	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	収穫 21 日前まで/2 回	
カスミン 粉剤DL カスミン 液剤	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	穂揃期まで/2 回	治療

※ 〔耐〕：MBI-D 剤（ウィン、デラウス、アチーブ）に対するいもち病の耐性菌の発生が、西日本を中心に他県で広く確認されている。

■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ

■ 適期収穫

良品質米の生産のため収穫は適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合 15%の時にいましょう（注：帯緑色籾歩合は生育中庸な 10 株から中位の穂を選び、不稔籾を除いて数えます。図 3参照）。

なお、各品種ごとの収穫期の目安は、出穂期（全穂数の 40~50%が出穂した日）から、「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を 3 時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

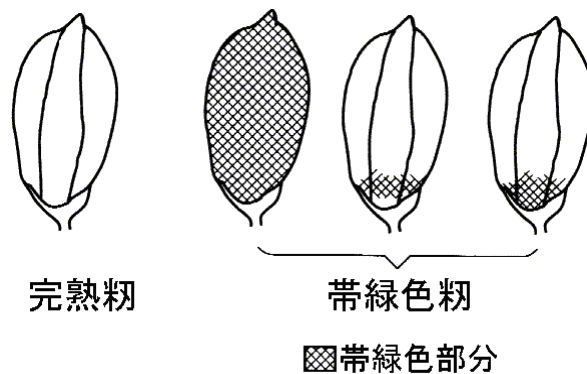


図 3 帯緑色籾の見分け方

■ 仕上げ水分

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7~0.8%で行い、仕上げ水分は14.5~15.0%とします。

また、籾摺りは、乾燥後、穀温が高い状態で行うと肌すれ米や胴割米を生じますので、十分放冷し穀温を下げてから行ないましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク含量が低く、美味しいお米です。

選別の網目は、1.8mm以上にしましょう。

また、今年度から一般栽培が始まっている「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、コンバイン、乾燥機、籾すり機の清掃をていねいに実施しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」(栽培管理記録簿)の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。



図 4 ふさこがね(4月20日植え)
7月28日(千葉市緑区刈田子)の様子

◆震災で田植えを遅くした稲の栽培管理◆

[遅植えした稲の出穂期・成熟期の予測]

品種	植付時期	場所	出穂期 予測	成熟期 予測
コシヒカリ	5月16日	千葉市	8月4日	9月11日
コシヒカリ	5月25日	千葉市	8月8日	9月17日
コシヒカリ	6月9日	香取市	8月18日	9月30日
コシヒカリ	6月10日	千葉市	8月15日	9月26日

5月下旬植えは8月10日頃に出穂し、9月20日頃に成熟期となる見込みです。
6月上旬植えは8月15～20日に出穂し、9月25～30日に成熟期となる見込みです。

[これからの管理の留意点]

○ 出穂3週間前～出穂2週間後は湛水管理！

通常の田植えと出穂時期が異なるので注意が必要です。幼穂形成期を過ぎたら、カドミウムの吸収を抑えるため、出穂3週間前～出穂2週間後は湛水管理とします。出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがいを行いましょう。

○ 海水流入田での稲刈り前の落水について

海水が流入し、除塩作業で田植えが遅れたほ場では、例年よりも遅くまで水管理が重要となってきます。刈り取り作業のしやすさを優先して落水時期を早めると、登熟不良や未熟粒の発生等、品質や収量の低下を招きます。また、海水が流入した水田では、落水により塩分濃度が高まることが予想されます。

出穂から約25日までは落水しないで、刈り取り1週間程度前まで可能な限り給水するようにしましょう。

○ 斑点米のカメムシ類の防除

遅植えの稲は出穂が遅くなり、集中的に被害を受けやすいので、注意が必要です。斑点米のカメムシ類の被害は成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期～糊熟期の吸汁によって被害が発生します。出穂期を想定しながら、薬剤防除を励行しましょう。薬剤は2ページの表2を参照してください。

○ いもち病の防除

葉いもちが発生しているほ場が見られます。葉いもちは穂いもちの伝染源となります。穂いもちは出穂時に感染するので、曇雨天が続く場合は出穂前に薬剤防除を行いましょう。薬剤は3ページの表3を参照してください。

○ イネツトムシ、イネアオムシに注意

遅植えの稲は、イネツトムシやイネアオムシが発生する場合があります。7月下旬現在、イチモンジセセリ(イネツトムシ)により葉がつづられた「つと」(苞)が目立つほ場が見られます。

被害が認められる場合は、トレボン粉剤 DL などの薬剤による防除を行いましょう。



図5 イネツトムシの「つと」の様子

○ 農薬のドリフトには要注意

用水の供給が遅くなって、地域内の田植え時期が広がった状況にあり、出穂時期がばらつくことが予想されます。農薬に使用できる収穫前日数を確認して散布しましょう。特に粉剤、液剤はドリフトを起こさないように注意しましょう。

遅植え稲の現在の生育の様子



図6 コシヒカリ(5月25日植え)
7月28日(千葉市緑区刈田子)の様子
止葉は間もなく抽出し終わる。出穂期は8月8日の見込み。